



【「月根尾」とは、学校のある地域の古名「突根尾原」に由来する地名です】

小さな挫折と熟考の大切さ

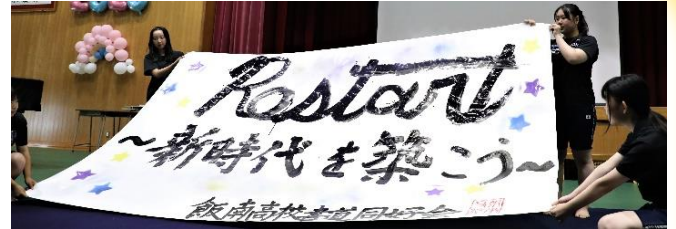
主幹教諭 伊藤 由実子

気象庁によると、今年の夏の平均気温は観測史上最高を記録したそうである。この暑さは東北地方も例外ではなく、最高気温 36 度の仙台において、高校野球決勝戦の翌々日、仙台育英高校の須江航監督の講演を聞く機会があった。

監督は昨年度の甲子園優勝インタビュー「青春って、すごく密なので」で有名である。今年、決勝戦のスタンドが慶應高校一色に染まりアウェイと言われたが、試合後、監督は慶應を敬い、仙台育英ナインの行動を誇るコメントを出され称賛された。決勝戦の興奮が冷めない中で監督の講演を聞き、私も一瞬でファンになった。そこで、印象に残っていることを2つ紹介するとともに、監督の言葉を通して鵬雲祭を振り返りたいと思う。

1つ目は「**人生は敗者復活戦である**」。監督は小学2年で野球を始め、埼玉から野球強豪校である仙台育英高校に進学された。全国から実力のある球児が集まる中でレギュラーになれず、高校2年の秋に野球選手になる夢を諦めたが、野球に関わりたいという新たな目標を見つけ、学生コーチを目指されたそうである。監督は、「自分の野球人生は挫折である。挫折のない人生は絶対ないし、そもそもそんな人生は面白くない」と言われた。今は SNS で他人の生活ぶりを簡単にみることができる。そこにはインフルエンサーが発信するキラキラした生活があり、ややもすれば自分も簡単になれそう、成功できそうと錯覚する。しかし、どんなに成功している人もきっと挫折を繰り返し、たくさんの苦勞をしているのではないだろうか。

鵬雲祭には小さな挫折を体験できるチャンスがたくさんあったと思う。自分の思いが伝わらない、がんばってもできない、間に合わない、思っていた結果と違った等…。私も「**小さな挫折**」はむしろ必要だと思っている。挫折を乗り越えることこそ成長であると考えからである。みなさんが鵬雲祭で小さな挫折に対して自分なりに試行錯誤し、「納得解」を見つけることができたらうれしい。



▲書道同好会によるスローガンの揮毫披露!

2つ目は「**イマドキ世代は選択ネイティブ**」。今の高校生は小さい時から常に「選択」することが当たり前、強制されることがない世代だそうである。したがって、生徒に「いいから走れ、とにかく走れ」と強制することは効果がなく、なぜ走る必要があるかを丁寧に根気強く説明しなければ走らないとおっしゃっていた。私が子どもの頃、テレビは一家に1台、チャンネル権を持つ父親から時代劇やプロ野球を強制的に見せられていた。しかし今、テレビは各部屋に1台どころか、各自がスマホで、TVer や Netflix 等で見たいものを好きに見られる時代である。着るものや食べるもの、習い事等選択肢が豊富にあり、入試でさえ総合型や学校推薦型など様々な方法がある。

みなさんは、常に短時間に、たくさんの物事から選択することを求められ続けてきたため、もしかすると「熟慮」「思案」する経験が少ない(そんな余裕がない)かもしれない。パッと選択する、ワンクリックするのが当たり前の今、一つ一つの行動を起こす前に、周囲とじっくり相談し、よくよく考えながら物事を進めていく経験はとても必要なものではないだろうか。鵬雲祭には「熟考」による選択が求められる場面がたくさんあった。「熟考」する経験を積み重ね、しっかりとした思考力や判断力を身に付けてほしいと思っている。

今年のスローガン「Restart～新時代を築こう」は、コロナ禍前にただ戻すのではなく、新しい飯南高校の鵬雲祭を創造したいという生徒会の想いがストレートに伝わるよいスローガンであった。鵬雲祭を振り返り、何を「Restart」すべきであったかをしっかり考え、今後の生活や次年度の鵬雲祭に生かしてほしい。

8/31 鵬雲祭 文化祭1日目

4年ぶりに小中学生を招いて、中高合同バンドの演奏やクラスパビリオン等を楽しんでもらうことができました。パビリオンや文化部の催しは、1日目と2日目の内容を変えたり、小さい子から大人まで楽しめるようにしたりと、それぞれの工夫が光っていました。ミュージックコンテストでは、クラスごとに2部合唱やソロパートを取り入れ、クラスの絆の強さが伝わる歌声を届けてくれました。

▶ドラの音で鵬雲祭の幕開けです!

▼小学生・中学生の皆さんに
全クラスのパビリオン・文化部の催しを楽しんでもらいました

▼PTA・鵬雲会模擬店
ご協力いただいた保護者の皆様、
ありがとうございました!



9/1 鵬雲祭 文化祭2日目

神楽愛好会の演目「山姥」を見るために、たくさんの地域の方が来てくださいました。会場全体で迫力ある演舞を楽しみました。講演会では、西原さつきさんをお招きし、自分の性と向き合い、どんな風に生きてこられたのか、「自分らしく生きていく」とはどんなことなのかをお聞きし、今後の生き方について考えました。

▼生徒会企画「利き○○クイズ」
2日間を通して、様々な生徒会企画が行われました



9/2 鵬雲祭 体育祭

3色に分かれ、学年を超えた団結を見せてくれた体育祭。4年ぶりに制限のない体育祭で、保護者・地域の方にもたくさんの競技に参加して一緒に盛り上げていただきました。ありがとうございました!



『感謝』

生徒会長 稲田 七星

まずは鵬雲祭本当におつかれさまでした!
今年度の鵬雲祭は新型コロナウイルスによる制限が解除されて初めての鵬雲祭ということで、この鵬雲祭が飯南高校の再スタートのきっかけとなり、ここから新たな1歩を踏み出せるよう、新しい企画をはじめ、沢山の準備をしてきました。夏休みから準備が始まり、多くの悩みや衝突の中で一人一人が様々な想いをもちながら参加した2週間だったと思います。こうして迎えた鵬雲祭は、沢山の方の笑顔であふれ、飯南高校の良さが最大限に引き出された最高の3日間でした。それも、実行委員会のみんなや生徒の皆さん、先生方、地域の皆さんなどの沢山の方の協力があって成し遂げることが出来ました。本当にありがとうございました。



生徒会執行部の皆さん、1年間お疲れさまでした!

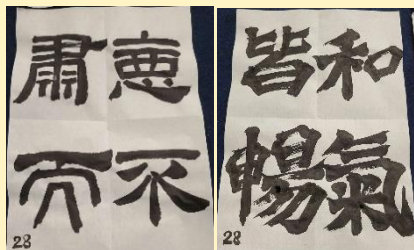
また、1年間生徒会執行部としての活動をするにあたって多くの意見や協力をいただきました。多くの方に支えられていることを身にしみて感じた1年だったと思います。特に、それぞれ忙しい中、ここまでついてきてくれて、1年間やりきった執行部のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。とても楽しく、自分にとって間違いなく大きな1年間でした。沢山のご協力本当にありがとうございました。

書道同好会

高文連書道コンクール

景山 英
黒田 蒼子
岡野 薫
井上 未来

**特選
秀作
秀作
佳作**



▲ 景山英さんの二作品



バレーボール部

8/8

飯南町のバレーボールスポーツ少年団との合同練習

部長の多久綺乃さんは、「練習では、部員で内容を決め、小学生が楽しめるように工夫をしました。当日は一つ一つの練習で、普段私たちが意識していることや基礎的なことなどを小学生と練習しました。小学生に教えることは難しく、思うように進めることはできませんでしたが、私たちにとってとてもいい経験となりました。楽しく活動することができたので、また機会があれば一緒にバレーをしましょう!」と話していました。



卓球部

8/20

第50回島根県高等学校1年生卓球大会

【男子学校対抗】 飯南 1-2 邇摩B

【女子学校対抗】 飯南 0-2 浜田

【男子シングルス】 3名出場

【女子シングルス】 4名出場

三上紗季 3回戦進出 **ベスト16**

生命地域ラボ

8/27

神楽愛好会 結成5周年公演

令和元年の結成当時の卒業生から現在の愛好会メンバーまでが集結し、「ふれあいホールみせん」にて3公演を行いました。町内・町外から、年齢を問わずたくさんの観客の皆様にお越しいただき、大きな拍手を送っていただきました。多くの方に支えられてこの活動を続けられていることを改めて実感する時間となりました。



テニス部

8/19-20

島根県高等学校新人テニス大会出雲地区予選

【ダブルス】 3ペア出場

石飛有結・永間友梨ペア **ベスト4**

【シングルス】 6名出場

永間友梨 **ベスト8**

湯浅萌未 **ベスト8**

石飛有結 **ベスト16**

➔ この結果、

【ダブルス】1ペア、【シングルス】3名が、自力で

県大会出場権を獲得!!



10月の主な行事予定



9月28日(木) 中間試験(～10月3日)

10月 6日(金) 2年生中高R54ボランティア清掃

11日(水) 2年生研修旅行(～13日)

19日(木) 第2回生徒総会



21日(土) 県外生対象オープンハイスクール

24日(火) 校内ロードレース大会